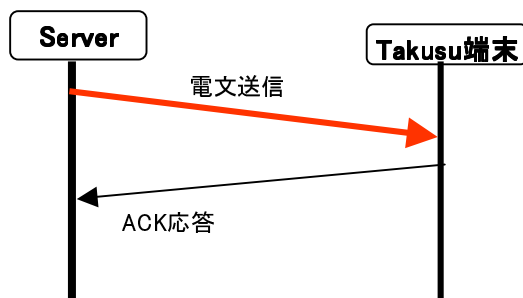


■ Takusu の通信方式

Takusu 緊急地震速報受信システムは「サーバー予報型」ですので、サーバーから端末へは、制御・放置に必要なデータのみ送信します。そのデータ量は数10バイトと小さく、通信の1パケット内で収まってしまいます。これは、気象庁が発信する緊急地震速報(予報)のデータ量に比べて極端に小さくなっています。

この特質を生かして、Takusu システムは新たに開発したUDP/IP・SCB方式を採用して高速・高信頼性の通信を実現しています。

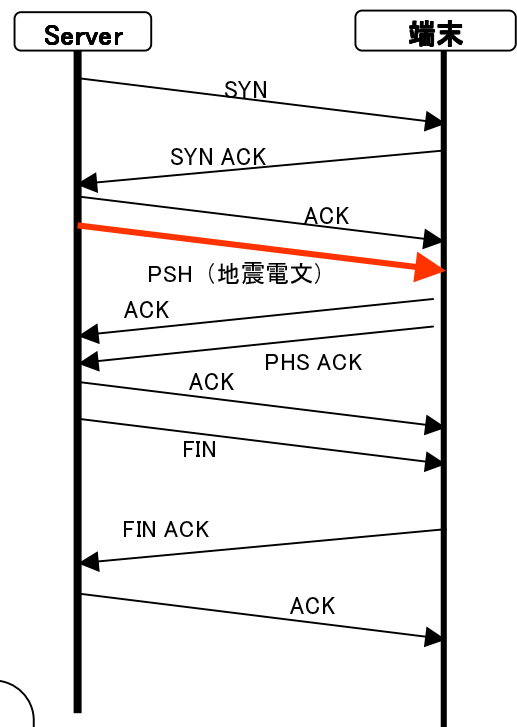
UDP/IPでの送信



UDPメリット・デメリット

コネクション無しにいきなり情報を送信なので通信が速い。
送信の仕組みがシンプルなために
(一般的に信頼性が低い
「使用方法に注意」)

TCP/IPでの送信



TCPメリット・デメリット

非常に多い通信手順を踏む代わりに高い信頼性がある。
通信時間に時間が掛かる。

新開発「UDP-IP・SCB方式」方式を使った場合

新しく開発した「UDP/IP・SCB方式」方式は、データ送受信するだけの単純なUDP/IPプロトコルを使い、データの管理をアプリケーションが積極的に行います。たとえば、データを受け取ったというAck信号が端末から返ってこなければ再度データを送信する再送動作はアプリケーションが管理して実行します。データ数の管理もアプリケーションで行います。しかしながら、弊社のサーバー演算方式の特徴を生かしてデータ数は1パケット内に収まるようにしていますので、「データ数は一個だけ」なのでデータの欠落は発生いたしません。このように新方式では、データを早く送受信するとともに、データの信頼性をTCP/IPプロトコルと同等にまで高めています。同時にその管理を通じて受信端末の動作管理も兼用して行います。従ってTCP-IPを使う場合に比べて送受信の負担を大幅に減らすことが出来、個別配信個別管理が可能になりました。

UDP/IP-SCB方式(Signal Catch Back)株式会社トータル・ライフサービスコミュニティーが関係特許43件出願済でその使用をTakusu株式会社が承諾されたものです。